

## 真脇遺跡の調査成果

高田秀樹

石川県能登町真脇遺跡縄文館長

キーワード：縄文時代，縄文晩期，掘立柱建物跡

### はじめに

真脇遺跡は石川県鳳珠郡能登町字真脇に位置している。日本列島のほぼ中央にあって大きく日本海に突き出している能登半島の富山湾に面した東側の海岸近くにある。東・西・北の三方を標高100m前後の丘陵に囲まれ、南側へ緩やかに傾斜する標高4~12mの沖積低地に所在している。低地地帯の北東部には扇状地地形が認められ、周辺の丘陵地帯では段丘面が発達している。この低地地帯は、岩礁地帯のひろがる海岸の入り込んだ入り江奥に形成され、その地表面は海側へ緩やかに傾斜し、周りを囲む丘陵からは小さな河川が流入している。また、遺跡の周辺には真脇断層や地すべり地形がみられる。地質は中新世前期の安山岩類とその角礫凝灰岩、凝灰岩、あるいは凝灰岩質泥岩・砂岩が堆積する穴水累層と、その上位にある石英安山岩と凝灰岩を主体とする柳田累層が分布している。遺跡の位置する水田は、約11haの狭い平地であるが、丘陵の発達する奥能登地域にあっては貴重な平地といえる。海底地形は、能登半島基部の平坦な海底とは異なり、真脇付近で急激に深くなる。(図1参照)

真脇遺跡の発掘調査は、圃場整備工事に先立ち、1982年と83年の2年間行われた。この調査により、縄文時代前期初頭から晩期終末まで約4,000年間途切れることなく人々が住み続けていた集落遺跡と判明した。また、前期末から中期初頭の層で大量のイルカ骨が出土した。この調査の成果から、全国でも例を見ない長期定住遺跡と位置付けられ、1989年に国指定史跡(約37,600㎡)、1991年に出土品(219点)が国指定重要文化財となった。(図2参照)

能登町では史跡公園として整備するための計画を進めるため、1998年から発掘調査を再開した。これまでの調査成果を基に、2007年から2011年にかけて第1期史跡整備事業を行なった。(図2参照)

今回は2009年から発掘調査を行なっている調査区についての成果を報告する。

### 調査区の概要

1982年と83年の発掘調査で検出した、縄文時代晩期の環状大溝と呼ばれている遺構の西側に調査区を設定した。環状大溝は南側と北側が溝で囲まれ、側に配石を伴う幅の広い溝で構成されている。溝は西側で幅3mと広く深く作られ、東側へ行くに従い浅くなり消滅しているが、元は環状に巡っていたものと推定されている。北西の傾斜面には一人では持てない大きな石を配置している。大きな石の下には小さな石を裏込めしているの、かなり丁寧な作業が行なわれている。この傾斜面の配石の北東には溝が北方向に突出している箇所がある。扁平な石を南北方向に一行に10個を敷き並べ、北側から南側の環状大溝に区画された箇所に入る通路のような遺構がある。大溝で区画された範囲は、一辺が約8mの隅丸方形を呈する。木柱根の残されたピット、土坑、御物石器を伴うピットなどの遺構が検出され、祭祀的な遺物が多くみられることから、特殊な遺構と推定されている。(図3参照)

### 調査成果

この環状大溝から流れ出る水の下流部分の状況を把握するため、南北20m×東西20mの調査区を設定し2009年から発掘調査を実施している。縄文時代の包含層上位には、拳大から人頭大の礫

が堆積していた。また、幅 3m 近い小川の痕跡も確認されたことから、川の位置に近い場所と考えられる。礫の中からは土師器や珠洲焼片等の遺物が出土したことから、縄文時代以降の古代から中世にかけての川あるいは水路の位置にあたるものと考えられる。さらに、これらの川や水路により縄文時代の包含層が部分的に削られた状態であることが判明した。(図 4 参照)

縄文時代の包含層から、合計 67 本の木柱根を検出した。出土した木柱根の樹種同定は奈良教育大学金原正明教授に、<sup>14</sup>C年代測定については名古屋大学中村俊夫教授に依頼した。分析は時間の関係で全ての結果が出揃ってはいないが、その中間報告は表 1 のとおりである。

今回の調査では、既知の建物を含めて、5 組の木柱群を新たに確認する事ができた。

- ①SB01：木柱 31 は 1982・83 年調査時検出の二重構造の建物
- ②SB05：木柱 5・7・8・11・12・13・34 は 2 重構造の建物
- ③SB06：木柱 14・15・17・19・38・46 は 7 本柱の建物
- ④SB07：木柱 1・35・49・2・10・42・45 は二重構造の建物
- ⑤SB08：木柱 40・48・41・43 は二重構造の建物

SB06 はアテ (アスナロ属) 材を使用した、7 本柱の掘立建物跡と判明した。このような柱配置の例は竪穴式住居に見られるが、包含層が削られているため断定する事はできなかった。<sup>14</sup>C年代測定で紀元前 1400 年前後の値が出ており、掘り方内の土器型式との検討が必要である。アテ材を使った木柱はこれまでに SB04 が検出されている。また、SB05 の <sup>14</sup>C年代測定結果は環状木柱列の年代 (紀元前 700 年前後) とほぼ同じであることから、同時期の建物跡と考える事ができる。

## まとめ

これまでの発掘調査や <sup>14</sup>C年代測定の成果により、真脇遺跡における縄文時代晩期の建物跡の変遷の一部が明らかになった。発掘調査面積はわずかであるが、出土した木柱根の <sup>14</sup>C年代測定を進めることにより、晩期の集落形態と変遷解明につながるものと期待される。(図 5・6 参照)

本稿をまとめるにあたり、次の方々からご協力とご教示を賜った。記して感謝申し上げたい。

中村俊夫, 金原正明



図 1 真脇遺跡位置図

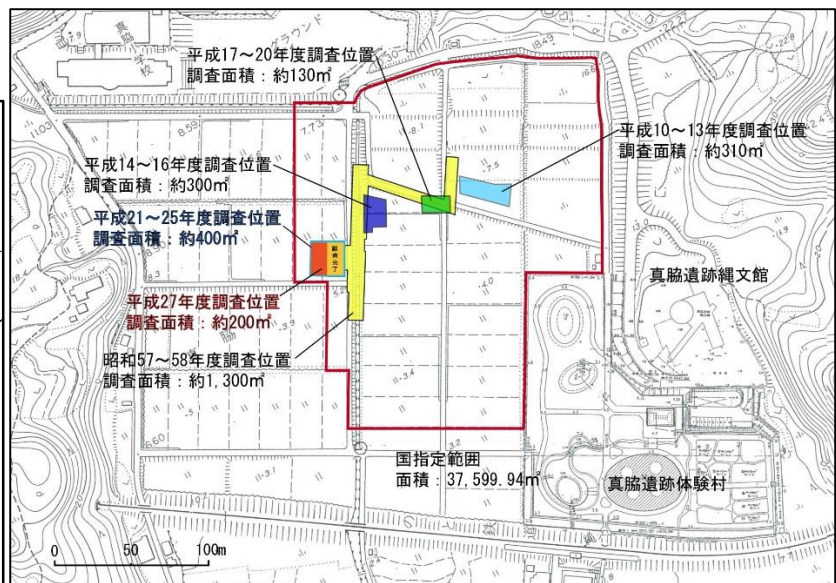


図 2 真脇遺跡発掘調査区配置図

表 1 木柱根一覧表

| 木柱根 | 柱形状 | 樹種    | <sup>14</sup> C年代測定較正 | 遺構番  | 木柱根 | 柱形状 | 樹種  | <sup>14</sup> C年代測定較正 | 遺構番  |
|-----|-----|-------|-----------------------|------|-----|-----|-----|-----------------------|------|
| 1   | 半割  | クリ    | 841-793 cal BC        | SB07 | 35  | 半割  | 未分析 | 未分析                   | SB07 |
| 2   | 丸   | クリ    | 902-810 cal BC        | SB07 | 36  | 半割  | 未分析 | 未分析                   |      |
| 3   | 半割  | クリ    | 905-814 cal BC        |      | 37  | 半割  | 未分析 | 未分析                   |      |
| 4   | 丸   | クリ    | 911-818 cal BC        |      | 38  | 半割  | 未分析 | 未分析                   | SB06 |
| 5   | 半割  | クリ    | 672-486 cal BC        | SB05 | 39  | 半割  | 未分析 | 未分析                   |      |
| 6   | 半割  | クリ    | 766-518 cal BC        |      | 40  | 半割  | 未分析 | 未分析                   | SB08 |
| 7   | 丸   | クリ    | 768-505 cal BC        | SB05 | 41  | 半割  | 未分析 | 未分析                   | SB08 |
| 8   | 丸   | クリ    | 695-539 cal BC        | SB05 | 42  | 半割  | 未分析 | 未分析                   | SB07 |
| 9   | 半割  | クリ    | 1010-895 cal BC       |      | 43  | 半割  | 未分析 | 未分析                   | SB08 |
| 10  | 丸   | クリ    | 976-836 cal BC        | SB07 | 44  | 半割  | 未分析 | 未分析                   |      |
| 11  | 丸   | クリ    | 646-550 cal BC        | SB05 | 45  | 半割  | 未分析 | 未分析                   | SB07 |
| 12  | 丸   | クリ    | 602-478 cal BC        | SB05 | 46  | 半割  | 未分析 | 未分析                   | SB06 |
| 13  | 半割  | クリ    | 770-510 cal BC        | SB05 | 47  | 丸   | 未分析 | 未分析                   |      |
| 14  | 半割  | アスナロ属 | 1400-1262 cal BC      | SB06 | 48  | 半割  | 未分析 | 未分析                   | SB08 |
| 15  | 半割  | アスナロ属 | 1406-1258 cal BC      | SB06 | 49  | 半割  | 未分析 | 未分析                   | SB07 |
| 16  | 半割  | アスナロ属 | 1496-1411 cal BC      |      | 50  | 半割  | 未分析 | 未分析                   | SB06 |
| 17  | 半割  | アスナロ属 | 1451-1370 cal BC      | SB06 | 51  | 丸   | 未分析 | 未分析                   |      |
| 18  | 半割  | クリ    | 976-832 cal BC        |      | 52  | 丸   | 未分析 | 未分析                   |      |
| 19  | 半割  | アスナロ属 | 1527-1432 cal BC      | SB06 | 53  | 半割  | 未分析 | 未分析                   |      |
| 20  | 半割  | クリ    | 1124-974 cal BC       |      | 54  | 半割  | 未分析 | 未分析                   |      |
| 21  | 半割  | クリ    | 918-822 cal BC        |      | 55  | 半割  | 未分析 | 未分析                   |      |
| 22  | 半割  | アスナロ属 | 1219-1051 cal BC      |      | 56  | 半割  | 未分析 | 未分析                   |      |
| 23  | 半割  | アスナロ属 | 1386-1210 cal BC      | SB06 | 57  | 半割  | 未分析 | 未分析                   |      |
| 24  | 半割  | アスナロ属 | 1418-1292 cal BC      | SB06 | 58  | 半割  | 未分析 | 未分析                   | SB07 |
| 25  | 半割  | クリ    | 1056-918 cal BC       |      | 59  | 半割  | 未分析 | 未分析                   |      |
| 26  | 半割  | アスナロ属 | 1428-1310 cal BC      | SB06 | 60  | 半割  | 未分析 | 未分析                   |      |
| 27  | 半割  | アスナロ属 | 1454-1373 cal BC      | SB06 | 61  | 半割  | 未分析 | 未分析                   |      |
| 28  | 半割  | アスナロ属 | 1302-1126 cal BC      | SB06 | 62  | 丸   | 未分析 | 未分析                   |      |
| 29  | 半割  | クリ    | 1014-901 cal BC       |      | 63  | 丸   | 未分析 | 未分析                   |      |
| 30  | 半割  | クリ    | 1026-906 cal BC       |      | 64  | 丸   | 未分析 | 未分析                   |      |
| 31  | 半割  | クリ    | 935-828 cal BC        | SB01 | 65  | 半割  | 未分析 | 未分析                   |      |
| 32  | 半割  | 未分析   | 未分析                   |      | 66  | 丸   | 未分析 | 未分析                   |      |
| 33  | (丸) | 未分析   | 未分析                   |      | 67  | 丸   | 未分析 | 未分析                   |      |
| 34  | 半割  | 未分析   | 未分析                   | SB05 |     |     |     |                       |      |

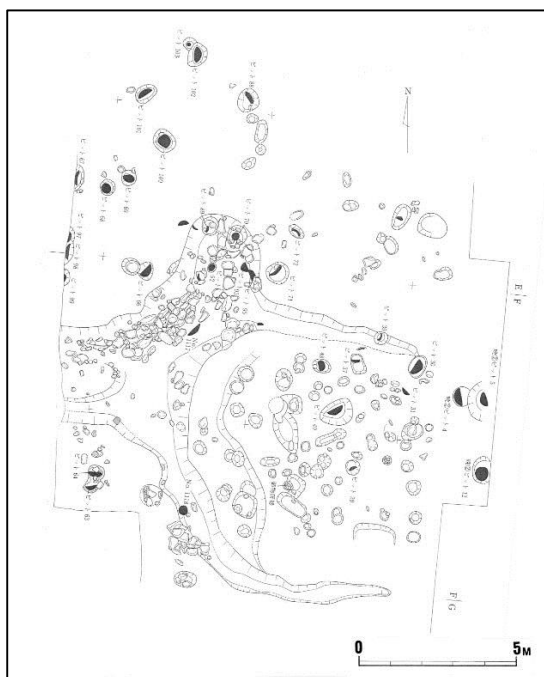


図 3 環状大溝平面図

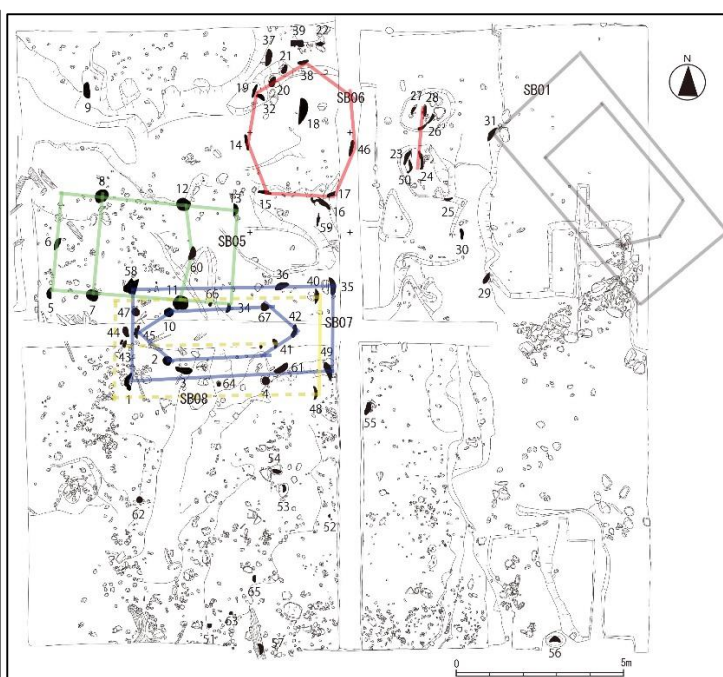


図 4 木柱根検出状況

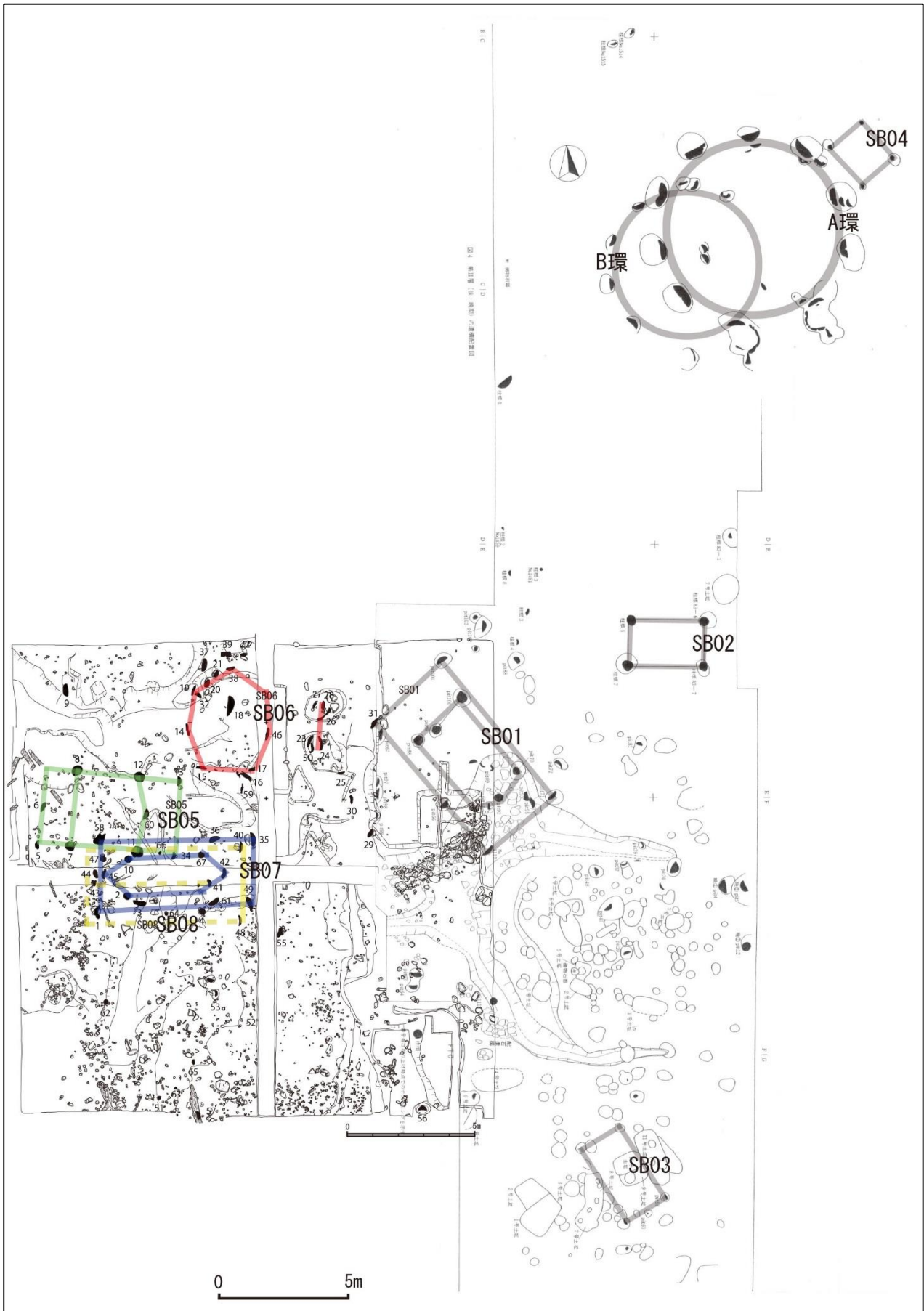


図5 晩期の遺構配置図

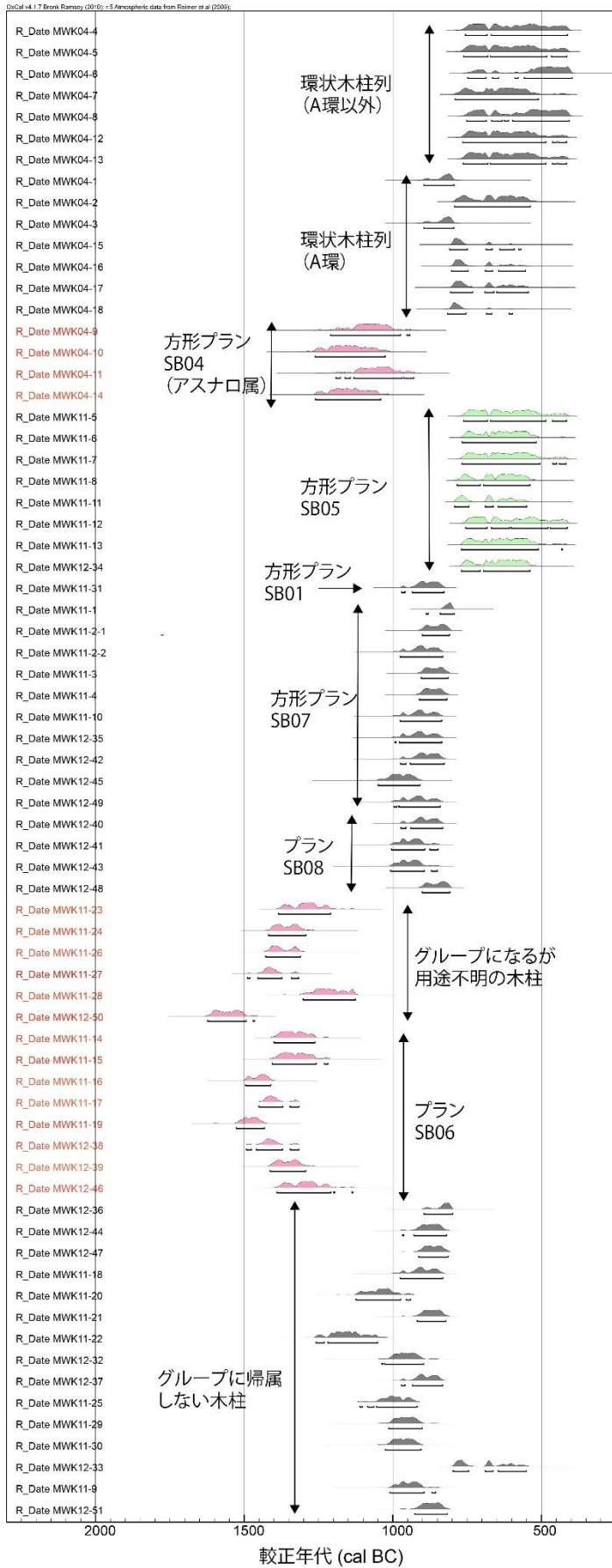


図 6 木柱根較正年代図 (中村俊夫氏作成)



図 7 環状木柱列 A 環検出状況



図 8 A 環木柱 1 検出状況



図 9 SB05 検出状況



図 10 SB05 木柱 7 検出状況